

令和4年3月19日

第1回 道德教育オンラインフォーラム

「特別の教科 道德」の本質に基づく多様な展開

—学びをよりよい自己、よりよい社会の形成へと向かわせる—

武庫川女子大学

押谷由夫

話の大筋

1. 道徳教育はどのような子どもを育てようとするのか
(素朴な願いから考える)
2. 道徳性（よりよく生きようとする心）はどのように育まれるのか
3. そのために大人はどのようにしなければならないか
4. 学校における道徳教育
5. 「特別の教科 道徳」の授業を思考過程で考える

1. 道徳教育はどのような子どもを 育てようとするのか（素朴な願いから考える）

- **いのちを大切に子ども**
（素朴な願い：無事に生きてくれますように）
- **心優しく元気な子ども**
（素朴な願い：元気にみんなと仲よく過ごしてくれますように）
- **独り立ちできる子ども**
（素朴な願い：自立してくれますように）
- **社会に役に立てる子ども**
（素朴な願い：社会に認められ、貢献してくれますように）
- **人間としての自分らしい生き方を追い求め続ける子ども**
（素朴な願い：人としてしっかり生きてくれますように）

★ まとめる

いのちの尊厳

- 自分のいのちを守り大切にする
- すべてのいのちを大切にする

(この根幹に生命尊重の道徳的価値意識の発展・創造と共有がある)

よりよい自己の形成

- 自分らしさを発揮して人間としてよりよく生きる自己を創っていく
- (この根幹に道徳的価値意識の発展・創造がある)

よりよい社会の形成

- ともによりよく生きることを可能にする社会 (共生)
 - みんなで助け合い協力してよりよい社会を創っていく
- (この根幹に道徳的価値意識の発展・創造と共有がある)

★★ 法律における保障

日本国憲法

第13条 [個人の尊重、生命・自由・幸福追求の権利の尊重]

「すべて国民は、個人として尊重される。生命、自由、及び幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする。」

教育基本法

第1条（教育の目的）

「教育は**人格の完成を**目指し・・・」

第2条（教育の目標）

※ **知、徳、体を養うことが大切なことと、その中核に徳があること**を示している。

第3条（生涯学習の理念）

「国民一人一人が、**自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることが**できるよう・・・」

2. 道徳性（よりよく生きようとする心） は

どのとらえか

- どの子も**道徳性の萌芽**をもって生まれてくる
- その道徳性は**実際の生活**を通して身に付けていく
子どもは能動的だが、**他者や環境によって制約**を受ける（**他律的**）
そこから**諸能力の発達や多様な体験**によって、自分で考え判断し行動できるようになる（**自律的**）
- その時の**行動や判断の基準・目標**となるのが道徳的価値意識である
（しかし、必ずしも正常に身に付け、発展させているわけではない）



生きる指針をよりよく生きる指針へと発展させることが必要
そのために義務教育における道徳教育がある

★ それは子どもの個性（主体性）の確立と表裏の関係にある

片岡徳雄（広島大学名誉教授）の個性論

- ・個性とは、**生き方**に他ならないから、「**立ち向かうもの**」をもっていることが本質であるにとらえる。
- ・個性は、「それぞれの求める**価値や目標**を抜きにしては語れない」。この「**価値に向かう努力**」が**個性理解の核心**に迫ることだから、**個性の神髄は「主体性」**にある。
- ・その主体性は、**社会とのかかわり**の中で発揮されると同時に、もう一つのルーツを持つ。それは、「**感覚**」である。その感覚は受

身でもあり能動でもある。感覚が能動的に働くときに「**感性**」、つまり「**価値あるものに気づく感覚**」が育まれ。ここにおいて、「非社会的なところから発した感覚が、社会的な価値に接触する」のである。

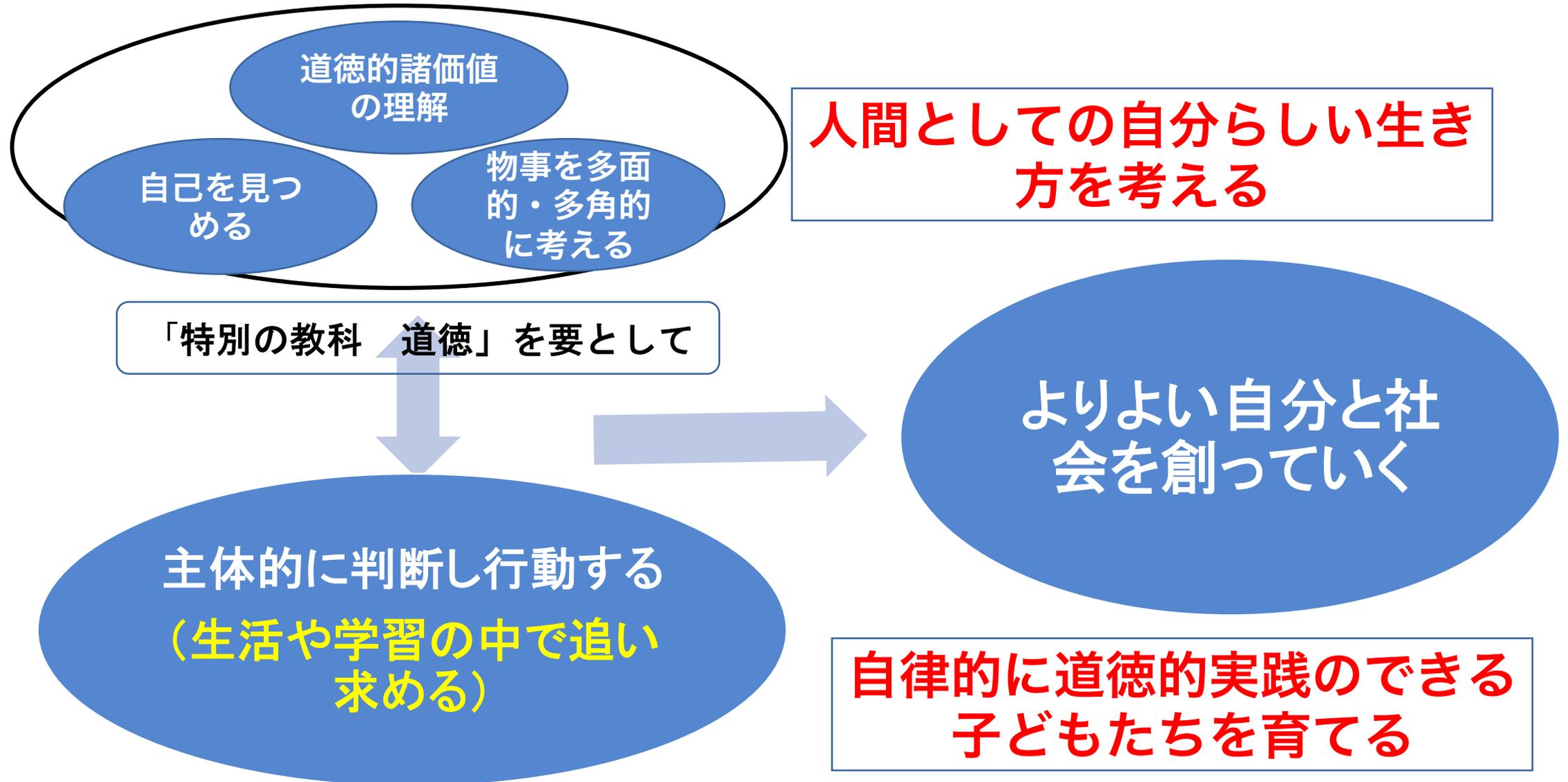
- 感性をさらに高めて「**情操**」のレベル、つまり「**価値に向かう感情または態度**」を養う必要があるとする。「**情操が思考や意志や創造と分かちがたく一つとなって働くとき**」、それを「**自己実現の欲求**」としてとらえられる。
- この「自己実現の欲求」は、「**自分の内なるものを外に出してゆく行動（表現的行動）**として示される」とする。これこそが、**主体的な個性の働き**である。
- 主体性の発達形成の過程を「『**問題中心**』と『**人間としての喜び**』を基軸として、**外に向かって感受性をもって接し、そして自らにだんだん自主、創造、非権威、さらにはアイデンティティが備わる**」ととらえる。それが、個性の形成である。様々な変化する社会といかにかわり、**主体性と自由を確保**しながら、個性の形成を図っていくかが課題である。

3. そのために大人はどのようにしなければならぬか

- 子どもを信じる
(どの子どもよりよく生きようとしている)
- 内なるものを子ども自身が育めるようにする
(様々ななかかわりを豊かにする生活体験ができる環境を用意し見守る)
- 大人の意図的な働きかけを工夫する
(成長の芽を見つけ伸ばせるように支援する)
(機をとらえた働きかけ)

4. 学校における道徳教育

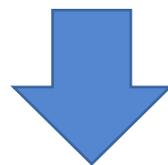
4-1 道徳教育と「特別の教科 道徳」の目標



4-2 道徳教育の指導内容のとらえ方

4つのかかわり（自分自身、人、集団や社会、生命・自然や崇高なもの）ごとに、かつ学年段階ごとに重点的に示されている

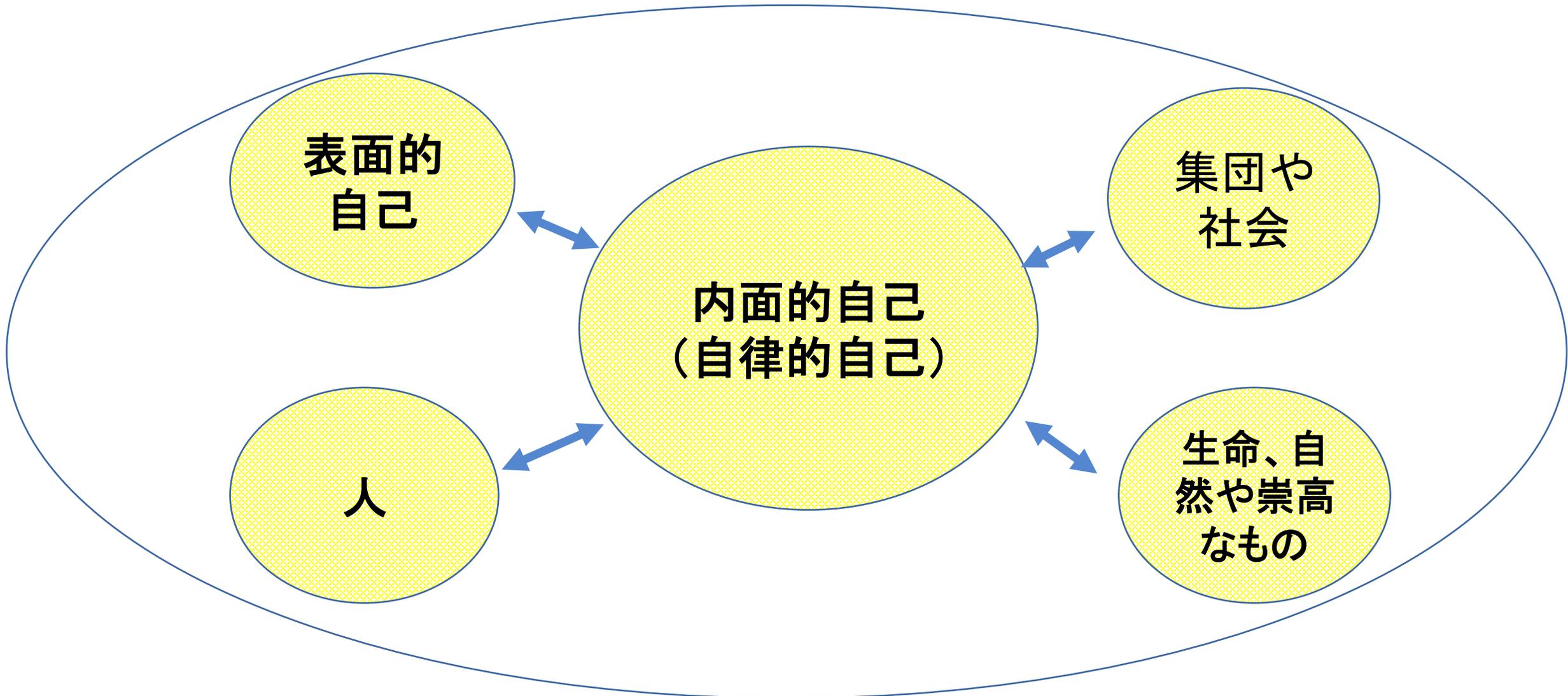
- ・ 指導内容は、4つのかかわりを豊かにし、人間として自分らしくよりよく生きるために必要なものである



道徳性の育成にはかかわりを自分らしく広げ深めていくことが大切

それが道徳的実践である

★ 内面的自己と4つの対象との関わりを豊かにするには
(現実生活の中での自律的自己の形成)



★★ 内容項目のとらえ方

- 人を裁く基準ではない
(悪しき正義感を生む)
- 自分を縛る基準ではない
(価値でがんじがらめになってしまう)

人間として共によりよく生きる窓口となるもの

どう自分らしく身に付けみんなと共有していけるかを考える

調和的に学んでいくことが大切

4－3 「特別の教科 道徳」の評価

4－3－1 評価の根幹

「特別の教科 道徳」の評価観は、従来の評価観を
180度転換することを求めている



教えたことをどの程度理解し身に付けたかを中心とする評価観から子どもたちが本来もっているよりよく生きようとする心をいかに目覚めさせ、引き出したかを中心とする評価観へ

★個人内評価で成長した道徳性を記述式で示し一人一人を勇気づける

4-3-2 子どもたちのよりよく生きようとする心に関する 「よいところ探し」が評価である

- 1 子どもたち一人一人への愛情表現である
- 2 子どもたち一人一人への信頼の証である
- 3 子どもたち一人一人へのリスペクト（敬意）を示す
- 4 よさの成長を根気強く見守る
- 5 **保護者の信頼を得る**

（保護者会等で説明する、学校通信や学級通信等で知らせる、保護者からも子ども評価をしてもらう等）

★ 道德教育が求める人間観、指導観、評価観

人間観

誰もがよりよく生きようとしている
(子どもへの信頼、リスペクト)

指導観

多様な主体的・対話的な学びを通して
子ども自身が内なる力を伸ばしていく

評価観

一人一人のよりよく生きる心や力の成長を評価
する (自己評価・自己指導につなげる)

5. 「特別の教科 道徳」の授業を 思考過程で考える

5-1

道徳の授業に対する子どもたちに育んでほしい思い

○ 自分は必ずよくなる（自分を信頼）

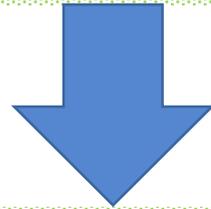
○ だれもがよりよく生きようとしている
（先生や友達を信頼）

○ みんなと一緒によりよい集団や社会をつくっていける
分もみんなも成長できる（未来に対する絶対的信頼）

（わくわく感、期待感をもてるようにすることが大切）

5-2 ねらいのとらえ方

道徳のねらいは到達目標でも達成目標でもない
子どもたちのよさを見取る窓口となるもの

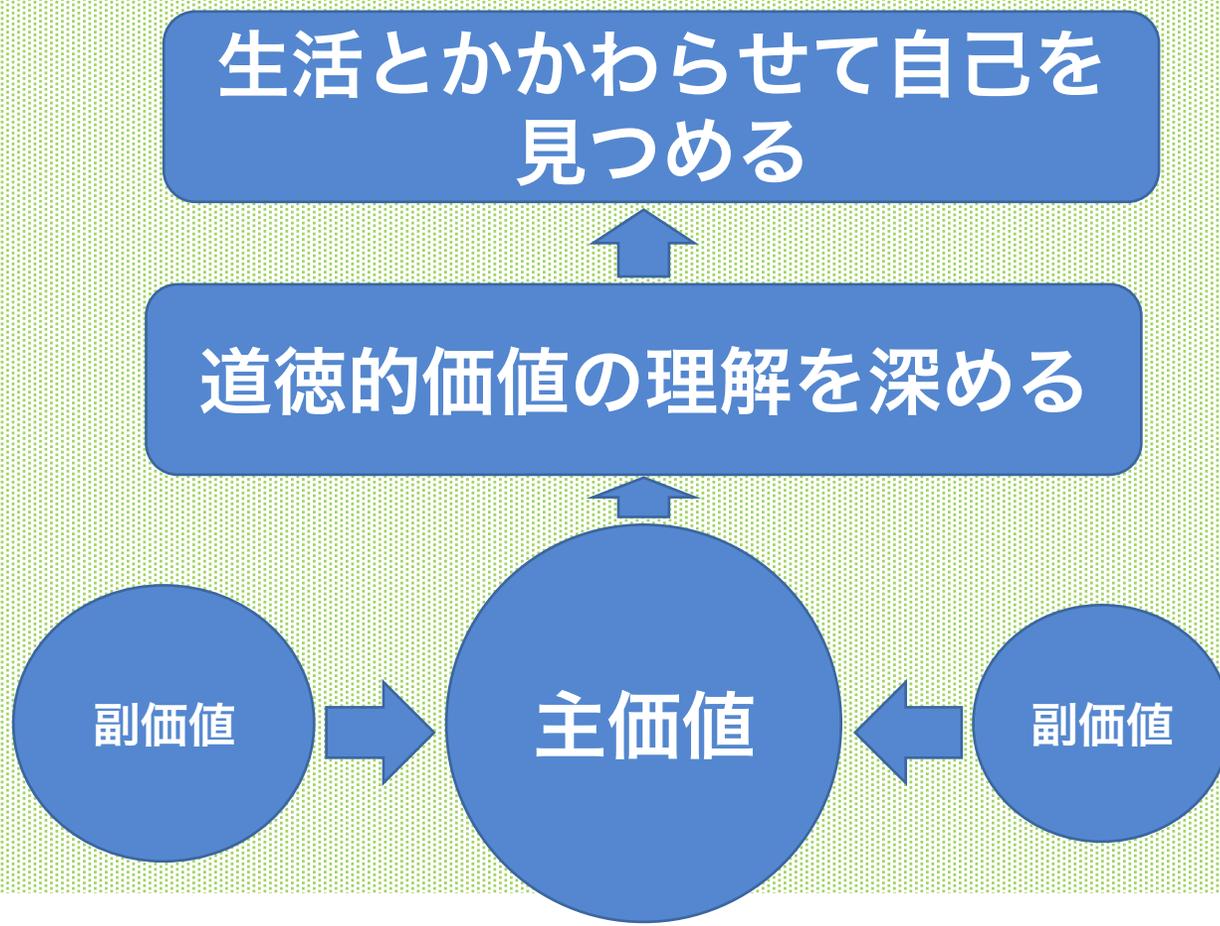


**評価はねらいを窓口として、子どもたち一人一人が
自分のよさをどれだけ表出し成長させているかを見る**

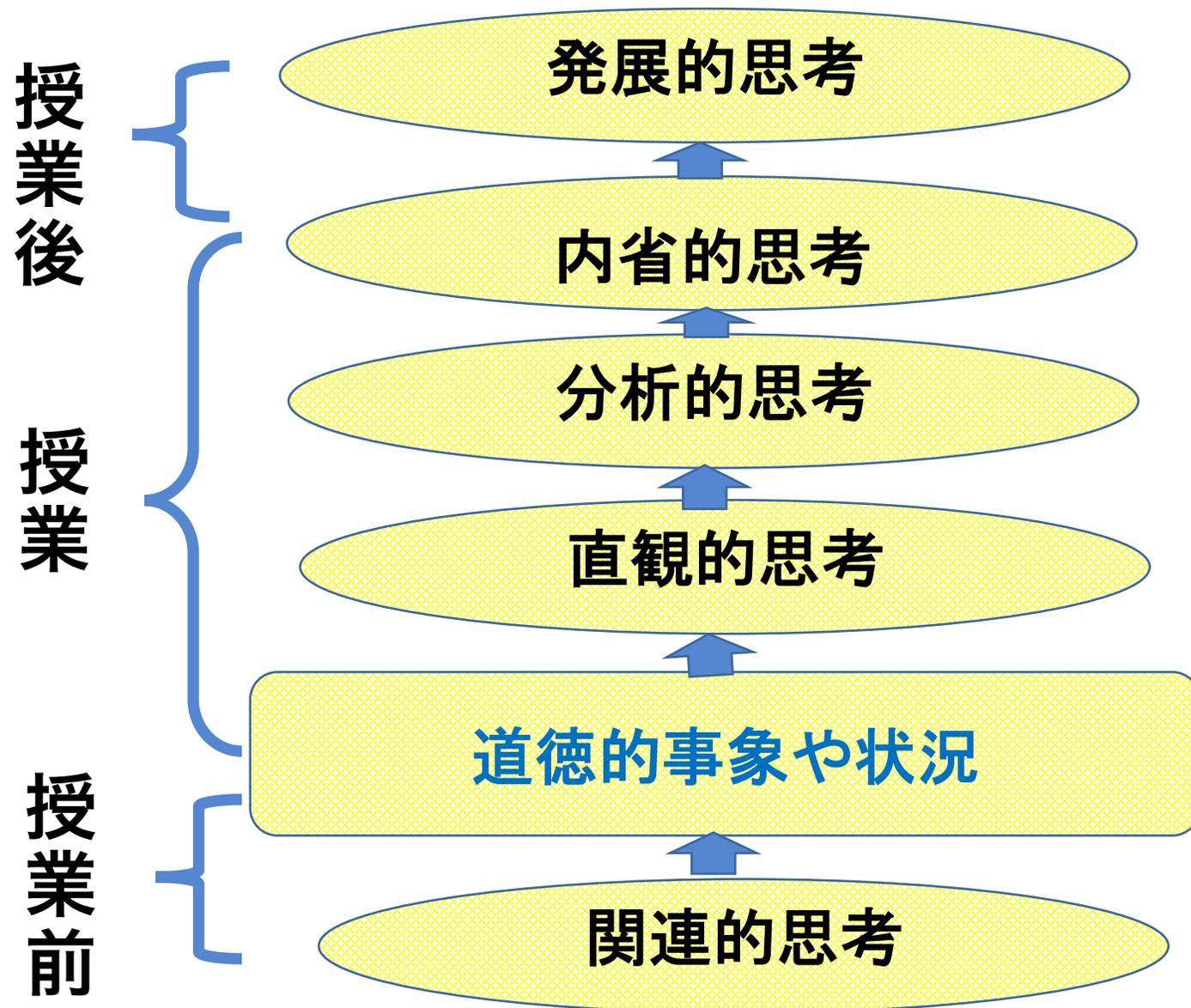
(道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲・
態度がどのように成長しているか)

5-3 主価値と副価値を押さえる工夫

教材分析しながら、副価値を明確にする。そして主価値と副価値とをどのように関わらせながら授業を展開できるかを考える。そのことで主価値の理解を深め自己を見つめられるようにする。



5-4 道徳の授業における基本的思考の流れ



5-4-1 関連的思考

ねらいに関係する事前の学習における思考

事前に課題を出されることによって、様々な生活や学習の中でねらいに関連するいろんな道徳的事象や状況を、自由に考える



ねらいとする価値にかかわる広範囲な耕しをする

5-4-2 直観的思考

道徳的な事象や状況に対して感覚的に感じること

例えば、どうしてだろう、すごいなー、楽しそうだなー
悲しくなるなー、やってみたいなー・・・



これらは道徳的価値に気づいたり、
興味を持つことでもある

5-4-3 分析的思考 (多面的・多角的に考える)

1 思考軸を移動させる

- ・対象軸 (立場を変えて考える)
- ・時間軸 (時間を移動させて考える)
- ・条件軸 (条件を変えて考える)
- ・本質軸 (どうしてを考える)

2 思考形態を変える

- ・疑問的思考
- ・批判的・論理的思考
- ・ケア的・心情的思考
- ・創造的・発展的思考

• 思考ツール（思考を促すための可視的な手立て）を工夫する

構造的な板書

心情曲線

心の綱引き

天秤棒

線上での位置

ウェブ図

4象限図

分割図

Y字図

鏡餅図

水に浮く氷図

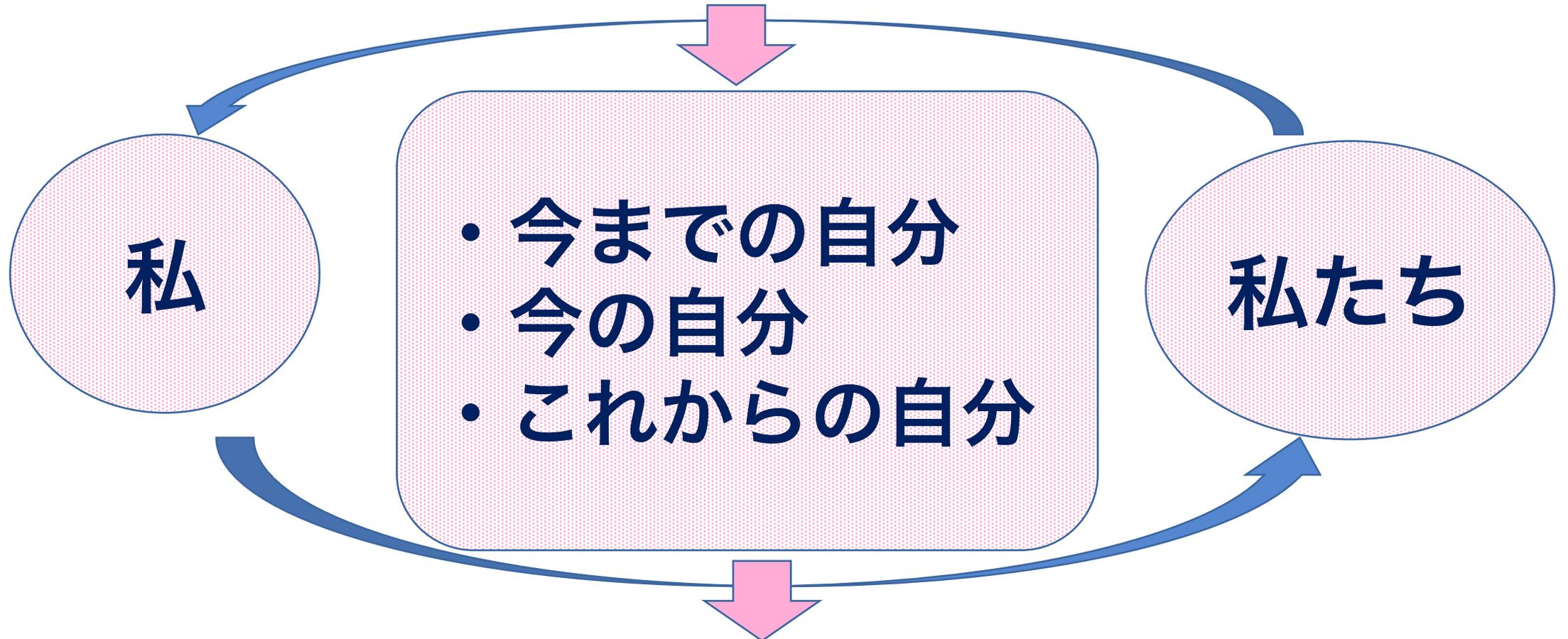
ランキング

グループピング

等

5-4-4 内省的思考

道徳的価値に照らして



自己課題・我々課題を明確化

5-4-5 発展的思考

授業で学んだことや感じたこと、考えたことや意欲づけられたことを発展的に考える思考

(具体的行動)

話し合ってみる

調べてみる

体験（実践）してみる

発展的に学んでみる

等

道徳教育がこれからの教育改革の 先導役を果たせるようにしよう

(その要として「特別の教科 道徳」がある)

学校を真の豊かな
人間教育の場
にしよう

